

2024年度 施策マネジメントシート【2023年度実績評価】

作成: 2024年 6月 5日

施策番号 2-1-1	施 策 名 学校教育の充実	主 管 課 教育推進課	基本目標 心豊かで輝く人と文化を育むまちづくり
			政策名 豊かな心を育む人づくりと生涯にわたる学びの充実
		課長名 坂口勝己	内 線 441
	施策関係課		

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針	対象	意図			結果		
社会に開かれた教育課程を基軸として、地域とともにある学校づくりを推進するとともに幼保小、小中連携・一貫教育などを推進することにより、持続可能な社会の創り手の育成を目指します。	児童生徒	・確かな学力、豊かな心と健やかな体を育み、持続可能な社会の創り手となるための資質・能力を身につける			社会に出たときに自立できる児童生徒		
成果指標	説明	単位	策定時(基準値)	2023年度実績	2024年度実績	2025年度実績	2026年度実績
「授業の内容がわかる」①と回答した児童生徒の割合	全国学力・学習状況調査	%	72.9 (R3)	77.6			80.0
「自分にはよいところがある」と回答した児童生徒の割合	全国学力・学習状況調査	%	79.5 (R3)	84.8			80.0
「朝食を毎日食べている」と回答した児童生徒の割合	全国学力・学習状況調査	%	87.7 (R3)	92.3			90.0
成果指標設定の考え方	成果指標の設定は、全国学力・学習状況調査の結果を採用し、①「豊かな学力」、②「豊かな心」、③「健やかな体」を育む上で、3つの指標を設定した。 目標値の設定は、各成果指標共に5%程度の上昇を目指し設定した。						

2. 施策の事業費

	策定時決算	2023年度決算	2024年度決算	2025年度決算	2026年度決算
施策事業費（千円）	1,049,599	934,372			

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2023年度の成果評価(基準年との比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	指標①②は少人数学級編成、授業改善、不登校支援、ICT教育環境の整備など、個に応じた指導の充実やコミュニティ・スクールの推進、指標③は食育・食農教育の充実や家庭との連携が向上に結びついたと考えられる。
②第5期総合計画後期実施計画(2026年度)の最終的な目標達成状況	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成できる <input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	指標①②の目標達成に向け、少人数学級編制や習熟度別少人数指導、特別支援教育の充実、不登校支援システムの活用、ICT教育環境の整備など、誰一人取り残すことのない個に応じた学びの場の充実や、コミュニティ・スクールの推進を図っているが、これらの取組を一層推進し、指標①の目標達成と指標②の目標維持を図る。 指標③の目標達成に向け、栄養教諭・管理栄養士による全校の全学級を対象とした食育指導や食農教育の充実を図っているが、児童生徒の基本的な生活習慣の確立に向けた家庭との連携も一層推進し、目標の達成を図る。
(2) 施策の成果評価に対する2023年度事務事業総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	①児童生徒支援事業 ②小学校(中学校)教材・教具支援事業 ③学校給食管理運営事業 ④コミュニティスクール運営事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	・「①」⇒町独自に令和5年度から小中学校全学年30人以下学級編成のため町独自で臨時教諭を配置したほか、特別支援教育の推進のための地域コーディネーターや教育活動指導助手、学校支援員を配置、更には、不登校支援システムを策定し個に応じた支援を推進した。 ・「②」⇒GIGAスクール構想推進のため教育DX推進員やICTヘルプデスクを設置し、ICT活用推進のための環境を整備した。 ・「③」⇒栄養教諭・管理栄養士による全校全学級の食育指導を実施すると共に、芽室産食材を活用した「めむろまるごと給食」の提供や「食農教育」の充実を進め、児童生徒の基本的な生活習慣の確立に向けた家庭との連携を推進した。 ・「④」⇒義務教育9年間の一貫性のある学習を推進するため、「小中一貫教育基本方針」を策定した。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定期との比較)

担当課 評価	少人数学級編成、特別支援教育、不登校支援、ICT教育環境の整備、医療的ケア児対応など、誰一人取り残すことのない個に応じた学びの場の充実やコミュニティ・スクールの推進を図ったことにより、計画策定期と比較し前進したと考える。		A	B	C	D	E
		進捗結果		○			

A:実現した B:(後期実施計画策定期と比較して)大きく前進した
D:(後期実施計画策定期と比較して)変わらない又は維持した C:(後期実施計画策定期と比較して)前進した
E:(後期実施計画策定期と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<p>《施策を取り巻く状況》 ①学校施設などの老朽化対策や多様なニーズへの対応。(R1:学校施設等長寿命化計画策定期)／②医療的ケア児を含む特別支援教育を必要とする児童生徒の増加への対応。(R2:地域コーディネーター複数配置)／③ICT教育推進への対応(R2:ICT整備・活用指針策定期)／④登校に困難を抱える児童生徒の増加への対応(R3:不登校支援システム策定期)／⑤部活動の地域移行への対応(R5:地域スポーツクラブ活動体制準備委員会設置)</p> <p>《今後の予測》 ①小中学校配置計画更新(R8)を見据え、児童生徒数の減少を踏まえた計画的整備が必要。／②医療的ケア児支援法を踏まえた組織的対応方針の策定が必要。／③授業改善を前提としたICT活用指針の改定が必要。／④不登校支援システムに基づく、組織的取組の定着が必要。／⑤地域移行に向けた課題の抽出、移行方法等を協議する場が必要。(R6:部活動地域移行推進協議会設置)</p>
この施策に対して住民・審議会・議会からどのような意見や要望が寄せられ、どのように改善したか。	<ul style="list-style-type: none"> 上美生地域保護者より、小中学校配置計画の次期改訂に向けた早期検討の要望がある。⇒R5:PTA役員との意見交換実施、R6:PTA会員との意見交換を予定。 不登校児童生徒への支援が必要である。⇒不登校支援システムに基づく組織的・計画的な取組や、相談体制強化を検討 不登校支援システムを推進する上で専門性が必要である。⇒システム策定期時に有識者の意見を踏まえ策定したが、今後も継続しシステムを推進する。 部活動の地域移行については、慎重に取り組む必要がある。⇒R6:関係機関による協議会を設置し課題等の整理を行う。 朝食摂食率を向上させる必要がある。⇒年度間の変動もあるため継続的な取組みを行う。

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たに取り組むべき課題)

①確かな学力の育成(児童生徒支援事業)⇒小中学校全学年における30人以下学級編制の実施等による習熟度別・少人数指導の推進、及び教育DX推進員の配置によるICT教育の推進、更には小中一貫教育の推進を図る。／②豊かな心の育成(児童生徒支援事業)⇒道徳教育や情操教育の充実、「いじめ防止基本方針」や「不登校支援システム」に基づく未然防止と早期発見・早期対応を図る。／③健やかな体の育成(学校健康診断実施事業・学校給食管理運営事業)⇒基本的な食習慣や生活習慣の確立のため、食育・食農教育、生活習慣病検査など、郷育や健康教育を推進する。／④特別なニーズに対応した教育の推進(児童生徒支援事業)⇒地域コーディネーターを中心とした発達支援システムの推進、及び、医療的ケア児支援法を踏まえた組織的支援体制の確立を図る。／⑤質の高い教育環境の整備(小学校・中学校教材・教具整備事業)⇒教育DX推進員の配置、AIドリルの導入などハード・ソフト・人材を一体としたICT環境の整備、部活動の地域移行に向け協議会を設置、更には、小中学校配置計画更新(R8)を見据え、児童生徒数の減少を踏まえた学校施設の計画的整備を進める。
--

6. 経営戦略会議(府内評価)

評価	成果指標等から、前進したと評価する。		A	B	C	D	E
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	進捗結果		○			

A:実現した
B:(後期実施計画策定期と比較して)大きく前進した
C:(後期実施計画策定期と比較して)前進した
D:(後期実施計画策定期と比較して)変わらない又は維持した
E:(後期実施計画策定期と比較して)後退した

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	府内評価同様に前進したと評価する。		A	B	C	D	E
今後の取組に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> 成果指標について、地域との関係などの指標があつたらいいのではないか 広報誌などで、学校に関するお知らせをもっとすることで「地域とともににある学校」に繋がるのではないか 全国学力テストの調査事項のうち、課題だと思う部分を違う学年に展開するはどうか ・コミュニティスクールが地域に人が身近に感じられるように取り組んでほしい。 ・ICTの充実が必要ではあるが、教師が子どもたちに向き合う時間を増やしてほしい ・GIGAスクールについて、心の問題がおろそかになるのではないか ・貧困で食事ができない子どもがいることを踏まえた、夏休み期間の検討をしてほしい ・おやつの提供について、子どもの健康や成長の観点で各課と協議してほしい ・欠食児の芽室町の独自調査の検討をしてください 	進捗結果		○			

D:(後期実施計画策定期と比較して)変わらない又は維持した
E:(後期実施計画策定期と比較して)後退した